

くまもとアートポリス 20年間の 歩み



Kumamoto Artpolis News vol.34



くまもとアートポリス建築展 2008
くまもとアートポリスプロジェクト
*宇土市立宇土小学校・網津小学校
*宇城市立豊野幼・小中一貫校公募型プロポーザル公開審査
*プロジェクト速報

トピックス
*第14回くまもとアートポリス推進賞
*平成20年度 視察状況
*くまもとアートポリス海外巡回展



発行
くまもとアートポリス事務局 (熊本県土木部建築課内)
〒862-8570 熊本市水前寺 6-18-1
TEL096-333-2537 FAX096-384-9820
kenchiku@pref.kumamoto.lg.jp
http://www.pref.kumamoto.jp/site/artpolis/

20 土 建
③ 001

再生紙を使用しています



くまもとアートポリスニュース第34号
2009年3月発行

くまもと アートポリス 建築展2008

Kumamoto Artpolis Architectural exhibition 2008

1988年の事業開始以来4年に1度開催されているくまもとアートポリス建築展。20年の軌跡を礎として「みちをひらく」をテーマに、展覧会、セミナー・シンポジウム、見学ツアーなど、多彩な催しを4ヶ月間に渡り開催。アートポリスのテーマは「学びつつ創る、創りつつ育む」。市民に開かれたプロジェクトという考えは、さまざまな人々の協力によって建築展にも受け継がれ、熊本は建築文化の発信地として次代への新たな一歩を踏み出した。



こんな学校で学びたい。これからの教育環境を考えるシンポジウムでは、主役となる児童の発表からディスカッションがスタートした。発表者は宇土小学校の渡辺さん、池田君、村上さん、日井君、網津小学校の境口さん、芥川君

オープニングイベント

「これからの教育環境を考える」シンポジウム

9月13日 宇土市民会館大ホール 参加者400名

学校づくりから“地域づくり・ひとづくり”へ



(左上)成田幸夫先生の基調講演 (左下)パネルディスカッション
(右上)宇土小学校と網津小学校の設計者による学校計画のプレゼンテーション
(右下)アトラクションで協力してくれた鶴城中学校の生徒と宇土幼稚園の園児

教育立市を目指す宇土市での2つの小学校のアートポリスプロジェクト。建築展のオープニングイベントでは、この学校づくりが宇土市の地域づくり・ひとづくりに繋がることを期待し、設計者をはじめ、プロジェクトに関わっていただいている先生、保護者、児童等に協力をいただき、「これからの教育環境を考える」をテーマとしたシンポジウムを開催した。

個性化教育の第一人者である成田幸夫先生(岐阜聖徳学園大学教授)からは、「新しい学びの風景と学習環境」と題して、これまでの豊富な経験を通じた基調講演を行っていただき、魅力ある教育環境づくりに向けた関係者それぞれの大切な役割を学んだ。

基調講演：成田幸夫(岐阜聖徳学園大学教授)
設計報告：小嶋一浩氏+赤松佳珠子(CAT)、坂本一成(アトリエ・アンド・アイ)
ディスカッション：上記に加え、木下博信(宇土市教育長)、末廣香織(建築家)、田中士郎(網津小学校長)、西山敦子(宇土小学校長)、濱下かおり(網津小学校PTA副会長)、元松 茂樹(宇土小学校PTA会長)(敬称略)

「木造建築のKUMAMOTO的可能性シンポジウム」

10月9日-10日 ぐまもと県民交流館パレオホール 参加者300名

海外で強烈なインパクトを放つ熊本の木造建築



(左)シンポジウムの風景 (右上)ゲスト出演の西沢大良氏 (右下)熱心な会場からの発言者

木造建築は林業県熊本にとって永遠のテーマである。「清和文楽館」「美里町林業総合センター」などこれまでのアートポリス事業でも先進的な木造建築が生まれているが、最新の「芦北町地域資源活用総合交流促進施設(交流センター)」「モクバン」「モクバンR2」などでも常に新しい木造建築の可能性が模索されている。シンポジウムに先駆けて行ったサテライト展でも、木造建築に関心の高い多くの来場者で賑わった。

このシンポジウムは、県内で木造建築に取り組む建築家、林業関係者、研究機関、大学のメンバーがコアスタッフとして最初から企画を行い、アートポリスの建築家や構造家を招いて、2夜連続で多様な角度から木造建築の可能性を探った。ゲストとして出演いただいた西沢大良氏からは、「海外講演などで美里町林業総合センターなどを紹介すると、来場者へ凄いインパクトを与える。日本が世界の建築界に貢献できるとしたら、木造建築。今回のシンポジウムが熊本で木造に関わっている方にも元気になる機会になれば」と力強いエールが送られた。

シンポジウムでは、伝統建築の再生や最新の木造建築の事例とともに、県産材の力学的特性や性質が紹介されたが、参加者からも建築基準法改正を踏まえた性能検証の活用など多方面からの意見が出された。林業を取り巻く環境は厳しく、環境面、

地域経済面、建築技術の継承面などからも総合的な対応が求められている。熊本の可能性を信じ、今後も継続的な議論を行っていくことを確認してシンポジウムを終えた。

コアスタッフ：池田元吉(県林業研究センター)、入江雅昭、桂英昭、北原昭男(県立大教授)、小村健治、佐藤大八(林業家)、柴田真秀、西山英夫、古川保
ゲスト出演者：末廣香織、曾我部昌史、西沢大良、久田基治、渡瀬正記(敬称略)
※()記載の無いものは建築家



「木造建築の KUMAMOTO 的可能性シンポジウム」サテライト展9/20~21

グランメッセで行われたサテライト展。最新のアートポリスプロジェクトの木造建築物の模型のほか、「モクバン」のパネル展などが行われた。

「アジア国際建築フォーラム」

11月21日

県立劇場演劇ホール
参加者550名

アートポリスで実現、都市デザイン戦略



伊東豊雄氏の基調講演



パネルディスカッション



くまもとアートポリス
コミッショナー 建築家
伊東 豊雄 氏

韓国政府文化体育観光部
アジア文化拠点都市推進団団長
イ・ビョンフン 氏

シンガポールナショナル
アーツカウンシル会長
エドモンド・チャン 氏

台湾東海大学建築学部
教授
曾成徳 氏

(株)県民百貨店(くまもと阪神)
代表取締役社長
丸本 文紀 氏

東光石油(株)
代表取締役社長
石原 靖也 氏

韓国、シンガポール、台湾。急速に発展するアジアで繰り広げられるデザインを中心とした都市・経済戦略。今日、都市デザインが持つ経済的価値が改めて注目されるようになってきており、都市デザイン戦略を学ぶため、韓国からは毎年のようにアートポリスへの視察に多数が訪れている。このシンポジウムは、アジアの新潮流から都市デザイン先進地としての熊本の未来と新たな可能性を考えるために企画された。

第一部の伊東コミッショナーによる基調講演では、「7人の侍」と題して、国内外のプロジェクトでキーマンとなった7人のクライアントが紹介され、プロジェクト実現に向けた意志の大切さが伝えられた。第二部では、韓国、シンガポール、台湾の有識者が各国の都市戦略を紹介し、第3部で地元経済界の代表者を変え、豊かなまちづくりへ向けた今後の取り組みについて意見交換を行った。継続によって地方文化を形づくり、世界的な価値を生み出しているくまもとアートポリスの可能性を県民が共有できる良い機会となった。

基調講演：伊東豊雄(くまもとアートポリスコミッショナー)
海外からのゲスト：イ・ビョンフン(韓国政府アジア文化拠点都市推進団団長)、
エドモンド・チャン(シンガポールナショナルアーツカウンシル会長)、
曾成徳(台湾東海大学建築学部教授)
地元経済界代表：丸本文紀(県民百貨店くまもと阪神社長)、石原靖也
(東光石油社長)(敬称略)

“文化芸術活動”が
「くまもとアートポリス」の
未来を変える



韓国政府文化体育観光部
アジア文化拠点都市推進団団長
イ・ビョンフン 氏

韓国では、日本の金沢や秋田は伝統工芸の街として知られていますが、熊本は建築の街としてとても有名です。特に「くまもとアートポリス」については、建築の専門家たちが高い関心を持っています。韓国では、光州広域市に「アジア文化拠点都市」を造る大型国家プロジェクトが進行中ですが、ここでは新しい建物をつくるだけでなく、都心部の中にある古い建物をリモデリングして文化ホールにするなど、文化インフラの構築を行っています。このプロジェクトのモデルになっているのが「くまもとアートポリス」です。

これからの「くまもとアートポリス」は、県内に点在する約80カ所のプロジェクトを、点から線、そして面へとつなげて、地域全体を活性化させていくことが重要だと思えます。建築物というハードウェアの中で人々が参加する文化芸術的要素を持つソフトウェアを展開することで、より効果的に地域が発展していきます。スポーツや映画、文化体験、子どもの教育といった文化芸術を盛り込んだ「魅力ある場所」をつくるのが人の集まる場所を生み、そこに新たな魅力ある文化が育つのです。「建築」、「都市計画」、「文化芸術活動」。この3つを都市全体の中でリンクさせた「文化都市」を創り上げることが重要だと確信しています。

これからの「くまもとアートポリス」のさらなる発展を、大いに期待しています。

「KAP建築セミナー」

11月22-23日

1日目「現代建築放談」
2日目「アートポリスプロジェクトの現場で設計者が語る」

県庁地下大会議室ほか
参加者延べ410名

感嘆！現代建築の意義を知る



伊東 豊雄 氏

赤松 佳珠子 氏

桂 英昭 氏

小嶋 一浩 氏

坂本 一成 氏

末廣 香織 氏

曾我部 昌史 氏

高橋 晶子 氏

高橋 寛 氏

藤本 壮介 氏

永吉 歩 氏

渡瀬 正記 氏



くまもとアートポリスに関わる多彩な建築家によるオープンセミナー。伊東コミッショナーや3人のアートポリスアドバイザーに加え最新プロジェクトに携わっている建築家が一堂に会し、2日間にわたるKAP建築セミナーが開催された。初日は、12名の建築家による現代建築放談。進行中のプロジェクト模型を前に、その特徴や建築に対する考えがわかりやすく伝えられた。続く2部では、建築家との身近な距離感や会場の温かな雰囲気の中で、作風の違う建築家どうしの熱い議論が交わされた。伊東コミッショナーは、「建築は何千年という歴史の中からその秩序を確立してきた。その秩序を変えたいなら、それに代わる新しい秩序を作らねばならない」と現代建築の意義を語った。

出演者：伊東豊雄、赤松佳珠子、桂英昭、小嶋一浩、坂本一成、
末廣香織、曾我部昌史、高橋晶子、高橋寛、藤本壮介、
永吉歩、渡瀬正記(敬称略)

(上)：パネルディスカッションの出演者
(下)多彩な建築家による現代建築放談

2日目は、「芦北町地域資源活用総合交流促進施設(芦北町交流センター)」や「モクバン」の現地で、設計者から直接レクチャーを受けるプログラムである。交流センターでは、設計者の高橋晶子氏と高橋寛氏が「屋根を編む」という提案を行った経緯などを説明。建設中の建物内部の見学では、参加者から感嘆の声が上がった。モクバンは、「木の可能性を追求した」という藤本壮介氏の作品。外観からは想像できなかった内部空間の体験に、今回は宿泊してみたいとの声も聞かれた。渡瀬正記氏と永吉歩氏による「モクバンR2」の説明も現地との対比でリアルさを増し、その実現に期待を膨らませた。移動中のバス



(左)外部から見たモクバン (右上)美しい芦北町交流センターの内部
(右下)設計者によるレクチャー風景(球東洞森林館)



新鮮な体験ができるモクバンの内部

の車内では、参加者から今回のセミナーに参加した経緯やそれぞれの建築に対する想いなどが報告され、終始楽しい雰囲気であった。

建築セミナーには延べ410名の方が全国から参加しており、参加者の満足気な表情が印象的であった。



卯月 裕貴さん

KAP 建築セミナーに参加して

東京の大学で建築を学んでいます。「モクバン」は、設計者の藤本氏の授業で知り、中の「段差に寝る」写真を見て、その寝心地に興味を持っていました。セミナーに参加して、実際に体験してみると想像以上の快適さにびっくり。また、建築家の方々と気軽に話せる機会もあり、大変勉強になりました。

「くまもとアートポリス 20周年記念展覧会」 11月26日(水)~30日(日) 県立美術館分館 参加者延べ701名



世界に誇れる KAPネットワーク

アートポリスの建築家たち

事業開始から20年を経過するアートポリス事業その成果は、後世に残り得る文化的資産としての優れた建造物を造るだけでなく、国内外で活躍するアートポリス参加建築家とのネットワークにもある。この企画展では、アートポリスの人的資源である建築家に焦点をあて、アートポリスの建築家に協力をいただき、現在の作品や活動内容をパネル、模型、雑誌等で紹介した。

7つのプロジェクト展&「佐藤光彦+西沢立衛スペシャルトーク」

「学びつつ創る、創りつつ育む」をテーマとした現在のアートポリス。この企画展では、現在進行中の7つのプロジェクトの模型を中心とし、パネルや映像で紹介した。また、最終日には、佐藤光彦氏と西沢立衛氏によるスペシャルトークを開催し、熊本駅東口・西口駅前広場の魅力を語った。

展覧会開催に協力いただいた建築家:

青木茂、青木淳、阿部仁史、新井清一、安藤忠雄、石田敏明、伊東豊雄、乾久美子、今村雅樹、梅田正徳、桜樹会、古川建築事務所、大野美代子、岡部憲明、小野田泰明、片山和俊、桂英昭、岸和郎、北川原温、北山孝二郎、小村健治、小嶋一浩+赤松佳珠子、小宮山昭、齊藤宏、齊藤百樹建築設計事務所、坂本一成、佐藤光彦、柴田真秀、末廣香織、鈴木了二、妹島和世、太宏設計事務所、大和設計、高嶋正治、高橋晶子+高橋寛、武田光史、塚本政利、塚本由晴、富永謙、中尾寛、中川建築設計事務所、新納至門、西沢大良、西沢立衛、西山英夫、野中暉夫、藤江和子、藤本杜介、藤森照信、古谷誠章、堀正人、松永安光、松本健志、みかんぐみ、室伏次郎、元倉真琴、八束はじめ、山田良+山田綾子、山本理顕、吉松秀樹、葉祥栄、ロゴス設計同人、ワークショップ、渡瀬正記+永吉歩、JTプロジェクト、SDA建築設計事務所(敬称略)



(上)7つのプロジェクト展と「佐藤光彦+西沢立衛スペシャルトーク」(下)作品パネルと模型による記念展覧会「アートポリスの建築家たち」

くまもとアートポリス特別記念シンポジウム 「建築家ピーター・クックと未来を語る」 12月8日 熊本テルサ テルサホール 参加者300名

ピーター・クックに学ぶ 建築の極意

1960~70年代に、未来的で奇想天外な建築を提唱し建築界に旋風を巻き起こした英国の建築家集団・アーキグラム。その中心的存在で現代建築の先駆者ともいえるピーター・クック氏を迎え、「brue,green and red」と題した基調講演を行っていただいた後、アートポリスコミッショナー・アドバイザーと国内外で活躍する若手建築家松原弘典氏、藤村龍至氏を交え、建築の未来について意見を交わした。建築家であり教育者でもあるクック氏は、「建築やデザインには楽しさがなくてはならない。若い建築家は多くの建築家と出会って学ぶことが必要」と、建築を志す学生などに熱いメッセージを送った。

基調講演:ピーター・クック
出演者:伊東豊雄、桂英昭、末廣香織、曾我部昌史、松原弘典、藤村龍至(敬称略)



(左上)記念講演を行うピーター・クック氏 (下)パネルディスカッション

「菊池まちづくりワークショップ」 12月10日(水) 菊池市福祉会館 参加者50名



まちの記憶を 未来へ繋ぐ

菊池市の中心市街地で行われている3つのポケットパークのプロジェクト。この公園整備は、観光振興、中心市街地の活性化、居住環境の改善を目指して行われるものである。アートポリスではこれからの市民参画による新しいまちづくりや、公共施設整備のあり方を提起するため設計者の塩塚隆生氏をファシリテーターとしてまちづくりワークショップを開催した。テーマは「まちの記憶を未来に繋ぐ~わいふ今昔地図をつくる」。あらかじめ市民から貸与いただいた古い街並みの写真を地図に落としていく作業を通して、まちの記憶が蘇り、まちづくりに大切な要素を市民と共有することができた。このワークショップは末廣香織アドバイザーのほか、九州大学や熊本大学の学生ボランティアの協力により実現することができた。

(左上)わいふ今昔地図をつくるワークショップ (右下)ワークショップに協力してくれた学生の皆さんとの事前打ち合わせ

阿蘇小国郷コース/美里・山都コース/八代・球磨コース 「くまもとの魅力再発見!見学ツアー」

建設関係者に限らず誰もが参加しやすいように企画した見学ツアー。今回は、阿蘇、美里・山都、八代・球磨の3つのコースを用意。アートポリスの施設だけではなく、地域の魅力に触れていただくよう、食や文化施設にもポイントを置いたことから、募集開始と同時に応募が殺到した。観光資源という側面でもアートポリスの役割が今後益々期待されることを実感した。

八代・球磨コースに参加して
野口 洋子さん(右)
澤田 晴美さん(左)

青井阿蘇神社に興味があって参加しました。楼門はもちろんのこと、建物の中に感動しました。欄間や彫刻など400年前のものが今なお残っていることは素晴らしいですね。さすが、国宝だと思いました。今度は主人を連れて、もう一度じっくりと見に来たいと思います。



くまもとアートポリス建築展 2008 協賛事業

- 平成20年7月23日(水)~7月27日(日) 第20回「熊本の建築家作品展」2008 主催:日本建築家協会九州支部熊本会
- 平成20年7月26日(土) 熊本視覚学会と「本丸御殿の復元」講演会 主催:日本建築家協会九州支部熊本会
- 平成20年9月20日(日)~9月21日(日) 世界のトイレ博物館が熊本にやってくる!! 主催:TOTOリモテッククラブ熊本会
- 平成20年10月24日(金) 2008年日本建築学会賞(作品)受賞者記念講演会「作品を語る」 主催:日本建築学会、熊本大学工学部
- 平成20年10月26日(日) 西沢立衛講演会 主催:熊本県立大学
- 平成20年11月8日(土)、9日(日) 木でつくる遊び場プロジェクト AOVIVA 主催:木でつくる遊び場プロジェクト実行委員会
- 平成20年11月17日(月) 九州・沖縄における既存RC造校舎の耐震性能 主催:財団法人日本コンクリート工学協会九州支部
- 平成20年11月18日(火) ふれいず講演会「石原良純講演&トークショー」 主催:財団法人熊本県建築住宅センター
- 平成20年11月24日(月、振替休日) 安全、エコとユニバーサルデザイン展 主催:熊本県建設協会、熊本県建築士会、熊本県ライオン会、熊本県建築士会、熊本県ライオン会熊本支部、熊本県建築士会
- 平成20年11月24日(月、振替休日) くまもとアートポリス・プロポーザル会員作品展 主催:社団法人熊本県建築士会熊本会
- 平成20年11月24日(月、振替休日) マモル x MAMORU 展 主催:Archestra 一建築創造企画委員会
- 平成20年11月28日(金) くまもと景観フォーラム 主催:社団法人熊本県建築士会
- 平成20年11月29日(土) 公共建築を考えるシンポジウム 主催:社団法人公共建築協会、公共建築の日実行委員会
- 平成20年12月5日(金) 第21回ライティングパーティー 主催:日本建築家協会九州支部熊本会
- 平成20年12月7日(日) 建築家フェスタ 主催:財団法人建築と文芸の懇話会
- 平成20年12月7日(日) 河原町文化大発表 主催:河原町文化大実行委員会
- 平成20年12月12日(金) 第4回土木学会景観・デザイン研究発表会 特別企画「風景をつくる現場」 主催:土木学会景観・デザイン委員会

フォト&紀行文コンテスト結果

- 最優秀賞
- フォト部門 加藤眞智子、佐々木信孝
 - ツアー紀行文部門 加藤進、白木千代美、山内義則(敬称略)

宇土市立宇土小学校・網津小学校

魅力ある教育環境づくりを目指し、児童、先生、保護者、地域の方々と一緒に取り組んでいる宇土市の小学校プロジェクト。関係者からは、先生と保護者の距離がより近くなり、学校と地域の関係にも良い変化が感じられるとの嬉しい声も聞かれる。新しい教育環境の創造に向けて設計から活用まで、経験豊かな設計者との連携に期待が膨らむこの事業は、教育に熱心な韓国からの取材をはじめ、全国誌でも度々紹介されるなど注目を浴びており、古くからの教育都市であるこの地域で学校づくりが地域づくりに拡がる可能性を秘めている。



先生、PTA、地域の代表の方々からなる検討会議（宇土小学校）



先生方との意見交換（宇土小学校）



実物大の教室を再現し、児童や地域の方々を行ったワークショップ（網津小学校）



模型を使用した学校計画の説明に熱心に聞き入る児童（網津小学校）

この2つの小学校プロジェクトは、アートポリススタイルともいえる公募型プロポーザル方式によって、平成20年2月23日に開催された公開審査で設計者が選定された。アートポリススタイルとは、プロポーザル方式の弱点であるデザイン力評価を適切に行うため、提案書での表現方法の制約を極力排除し、また設計者選定過程の透明性、公平性を確保するため、公開審査を経て設計者を選定するというもの。作品ではなく人を選ぶこの方式は、対話の中でデザインを作るといって「市民に開かれた現在のアートポリス」の姿勢を最も表したものである。

このプロジェクトは、子ども達のために魅力ある教育環境を実現したいという宇土市の熱意で実現したといっても過言ではなく、関係者とのデザインワークを始める前に市民アンケートの結果が丁寧に報告された。

設計者として選定されたのは、宇土小学校は学校建築で日本を代表する小嶋一浩氏と赤松佳珠子氏（シーラカンス・アンド・アソシエイツ）、網津小学校は人と建築の空間表現に優れた坂本一成氏（アトリエ・アンド・アイ）である。

学校建築は、教育プログラムと密接に関係があり、その主体となる先生の意見が重要となる。また教育都市であることから地域住民の関心も高い。このため、先生方との打合せを頻繁に行い、普遍的なニーズを設計案としてまとめ形づくり、さらにPTAや地域代表の方々と一緒にオーソライズする2段階のシステムが採用された。また、主役となる児童のニーズは、設計者による活動状況の調査だけではなく、ある程度設計案が固まった段階で、実物大の教室空間を再現し、直接的に意見を聞く方法が取られた。基本設計が完了するまでに行われた設計者による綿密な学校調査は、将来的な活用も意図した既存の家具や樹木にまで及んだ。現在、プロジェクトは実施設計から施設整備の段階に移行しようとしている。



宇土小学校の模型（写真提供：CAT）



網津小学校のバース（資料提供：アトリエ・アンド・アイ）

宇城市立豊野幼・小中一貫校公募型プロポーザル公開審査

アートポリスの小学校プロジェクト第2弾は、全国でも珍しい幼・小中一貫校。耐震改修を行う中学校校舎の敷地に建て替えが必要となった小学校を移転し、併せて就学環境の連続性を確保するため幼稚園を設ける意欲的な教育施設である。全国から25者の応募があり、一次審査（11月20日）で5者が選考され、二次審査（公開審査（12月7日））で最優秀者として「小泉アトリエ+SDA」が選定された。



公開審査の様子（豊野公民館）

最優秀賞 小泉アトリエ+SDA



設計チームコメント

「旧（ふる）い建物と新しい建物をどのように関係付けるか。また、幼・小・中の異なる年齢層の子どもたちが一つの場所で学ぶ空間をどのように一体化させるか、ということが大きなテーマとなり、建築的にどのように解決するのがポイントだった。歴史ある「くまもとアートポリス事業」に名を連ねることができたこと、また、豊野地区をはじめ宇城市の方々の期待は大きなプレッシャーだが、これらを真摯に受け止め、設計に取り組んでいきたい。」

講評

古い建物を包むようにS型に新しいものを入れた明快な構成が特徴。コンクリートの柱に木造の屋根を架けた空間が楽しそうであり、木造の屋根架構が場所によって高さを変えていく柔軟さも良いスペースを作ることを期待させる。コスト的により無理がなく、実績のある県内と県外的设计者に学校の専門家を加えたチームの信頼性も評価される。

優秀賞 古谷誠章+熊本大学田中智之研究室



設計チームコメント

「小・中学校に加え、幼稚園までが複合する建物なので、できるだけ多様な場所を作りたいと思った。また、この地区は、同級生の顔ぶれがあまり変わらないという話を聞いた。そこで、せめて学校内の空間体験だけでも、とても楽しくて変化に富んだものにできたら、という思いで設計した。学校や教育施設が集約しているこの地区だからこそできる事業プログラムとして、可能性を感じている。ぜひ成功してもらいたい。」

講評

450人の小さなまちというコンセプトで、一つの大きな輪のようなサーキュレーションとして、様々な場所を作っているという案。ランチホールを一番南側に設けシンボリックな場所とするなど、意欲的なことがたくさん含まれ、3つの校庭のスケールが違っていることも評価される。

一次審査被選考者案



株式会社飯田善彦建築工房



シーラカンスK&H株式会社



株式会社山下設計九州支社

プロジェクト速報

先進的な技術提案が求められる木造建築プロジェクトから駅前広場・ポケットパークなどの都市空間にいたるまで、市民に開かれた話題のアートポリスプロジェクトが着々と進行している。

球泉洞休暇村木造バンガロー (通称：次世代モクバン)

満35歳以下を条件に公開設計競技が行われた次世代モクバン。設計者となった藤本壮介氏とコミッショナー・アドバイザーとの間では設計協議が幾度となされ、2008年7月に完成を迎えた。新鮮な空間とフォルムを持つ木造バンガローは、建築展2008の建築セミナー参加者にも大きな感動を与えていた。是非、多くの人に体験していただきたい。



球泉洞休暇村木造バンガローR2 (通称：モクバンR2)

2008年に開催されたモクバンの第2弾。「競学の場」の創造を目指し、3段階方式という異例の公開設計競技では、延べ566点の応募数、800名の公開審査への参加者数を誇り、渡瀬正記氏と永吉歩氏が設計者に選定された。現在、工事中であり、間もなく完成予定である。



芦北町地域資源活用総合交流促進施設

先駆的な木造建築を実現することを目的に、高橋晶子氏+高橋寛氏(ワークステーション)が設計者として指名された。地元の竹細工にヒントを得た「木を編む」構造は、厚さ12cmの極めて薄い集成材の組み合わせで1000㎡以上の大空間を形成しており、2009年2月に落成式を迎えた。



熊本駅東口駅前広場 (暫定整備) 及び関連施設

様々な事業者が関係する駅前広場。九州新幹線鹿児島ルートの中線開業時の東口駅前広場の設計に際しては、関係者との十分な協議調整が必要なため、指名型プロポーザル方式で西沢立衛氏が設計者として選定された。現在、実施設計が完了し、間もなく特徴的な大屋根の工事が着手される。



熊本駅西口駅前広場

東口広場と異なり、設計と件が固まっていた西口駅前広場は、公開コンペ方式を採用し、市民への意見募集を経て、2008年5月に開催された公開審査で佐藤光彦建築設計事務所が設計者として選定された。東口広場の屋根に対し、西口広場は壁が特徴的で、どこにもない駅前広場の実現が期待される。現在設計中で、来年度には工事に着手予定である。



菊池市街地ポケットパーク

菊池市隈府地区に中心市街地の活性化を目的として整備される3つのポケットパーク。設計者には、塩塚隆生氏が指名された。建築展で開催された菊池市まちづくりワークショップの成果を活かしながら、公園整備が行われる地域の自治会の方々と意見交換を行い設計が進められている。



くまもとアートポリス最新情報 (2009年2月末現在)
 アートポリスプロジェクト数 82
 アートポリス事業関係総受賞数 78
 アートポリスプロジェクト竣工件数 69
 アートポリス推進賞・選賞 86

受賞情報
 ①藤本壮介氏が「モクバン」で、ワールド・アーキテクチャー・フェスティバル2008プライベート住宅部門のグランプリを受賞
 ②南小国町宮杉田・矢津田団地が日本建築学会作品選集2009に選考

第14回くまもとアートポリス推進賞

2008年度の推進賞は、43件の応募があり、現地審査や最終選考を経て、推進賞6作品、推進賞選賞3作品に決定した。表彰式では、作品報告会や座談会も開催された。毎年、応募作品の内容が充実してきており、選考委員の評価も高かった。



現地審査風景



最終選考会議

【推進賞】



障害者多機能型施設 高森寮



B-house in 島崎



ジャングルジムの家



Chro-e #01 (※1)



Eucaly2



松木運輸株式会社

【推進賞選賞】



しらさぎおざや (※2)



済生会熊本病院外来がん治療センター (※3)



barn renovation

撮影 (※1)は本信高(P-HOUSE) / (※2)服部和洋(写真やほっとり) / (※3)河野博之(西日本写真福岡)

平成20年度 視察状況

近年、韓国を中心に毎年500名近くの方(事務局対応分)がアートポリスの視察に訪れており、昨年度は572名に達した。今年度は、韓国から日本の観光客そのものが減少しているが、2月半ばで500名近くの視察者数となっている。韓国からの視察者は、建築の関係者や学生ばかりではなく、知事、政府関係者、テレビ局など裾野が広がっているが、南米ウルグアイ共和国大学など、数年一度定期的に視察に訪れているケースもある。



(上)アートポリスの視察に訪れた約180名の南米ウルグアイ共和国大学の学生(2008年5月)。新緑に包まれた県庁プロムナードでレクチャーを行い、その後徒歩で市内の施設見学へ向かった (左)韓国放送局の取材風景

くまもとアートポリス海外巡回展 (国際交流基金主催)

日本の文化を海外に紹介するため国際交流基金が開催している海外巡回展。2003年から南米ブラジルや米国をかわきりに、「くまもとアートポリス海外巡回展」がスタートし、昨年度末までに16カ国34都市で開催されている。今年度もニュージーランド、オーストラリア、スリランカ、トルコ、イエメンなど、5カ国9都市で開催され、アートポリスの国際的評価と認知度が更に高まっている。



海外巡回展の会場風景(韓国済州)

くまもとアートポリス海外巡回展開催状況

年	開催国・都市数
2003年	ブラジル、米国(2カ国、4都市)
2004年	米国、アルゼンチン、ボリビア、ニカラグア、ホンジュラス(5カ国、7都市)
2005年	コスタリカ、カナダ、米国、ベネズエラ(4カ国、7都市)
2006年	カナダ、マレーシア、モンゴル、ネパール(4カ国、5都市)
2007年	ベトナム、韓国、インド、ニュージーランド(4カ国、11都市)
2008年	ニュージーランド、オーストラリア、スリランカ、トルコ、イエメン(5カ国、9都市)

※国際交流基金は、文化交流の促進を通じて日本と諸外国との相互理解を深めるため、外務省所管の特殊法人として1972年に設立された財団である